

2019年度は1名減の9人体制での運用となったが、継続して検体検査と生理検査間でのローテーションを行った。その成果として全体でのカバーリング体制が更に充実し、有給休暇などが取得しやすい環境となった。更に1名の技師の出勤日数を削減する事が可能となった。

外来採血業務への参入は継続しており、基本週1日だが、外来繁忙時には可能な限りフォローを行っている。

出前・健康講座は「食中毒に気をつけましょう」と「閉塞性動脈硬化症とフットケア」、「肝臓癌にならないために」のテーマで参加した。今年から中学生を対象とした「喫煙の影響と生活習慣病」を新たに追加した。また看護師を中心としたミニレクチャーも、例年に加え「患者に安全な採血を目差して」を含む5つのテーマで開催した。

【検体検査】

検体検査の外注費用を含め、検査材料等の大きな経費削減には繋がらなかったが、生理検査を含めインフルエンザキットやエコーゼリー、採血管、肺機能フィルターなど、僅かではあるが安価な製品への変更を行った。

医療法改正に伴い「標準作業書」「試薬管理台帳」「作業日誌」「統計学的精度管理台帳」を作成し運用を開始した。

2019年度の検査件数は、外来入院共に僅かに減少した。

【生理検査】

ここ数年来実施してきた超音波研修の成果により、心エコーは4名体制、腹部エコーは3名体制(現2名研修継続中)となった。さらに他の領域も充実した体制を構築していく必要がある。

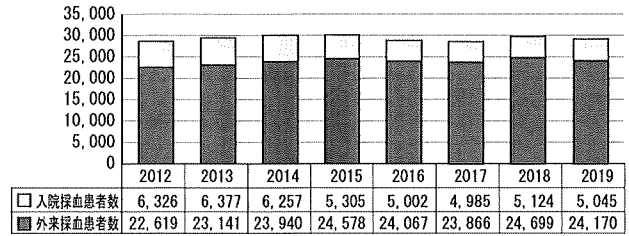
近隣医療施設からの依頼検査は、昨年同様要望がなく検査数の増加へは繋がらなかった。また他の検査も全体的に減少し、2019年度の生理検査件数は、全体で800件ほど減少した。

【今後の展望】

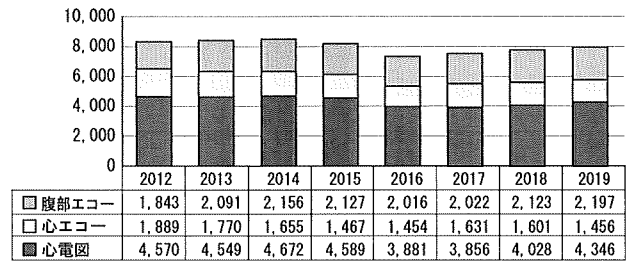
検査室全体のカバーリング体制のさらなる充実による、休みの取りやすい就業環境を整備していく。

実務のマンパワーは充実してきおり、数年来の念願であった「主任」への昇格が承認された。今後他部署の連携等を含め、マネージメント力の充実を図る。

採血患者数年度別推移



主な生理検査年度別推移



病理・細菌検査年度別推移

